

# 営繕のあゆみ '99



沖縄県土木建築部施設建築室



## 目 次

1	「営繕のあゆみ'99」の発刊にあたって	1
2	特集1 沖縄県平和祈念資料館建設工事	3
	特集2 沖縄国際友好会館(万国津梁館)建設工事	8
3	主要事例掲載	13
	● 企画開発部	13
	沖縄県海洋深層水総合利用施設建設工事	
	● 文化環境部	15
	国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター建設工事	
	西表国立公園黒島園地トイレ新築工事	
	● 福祉保健部	16
	県立北嶺学園改築工事	
	● 農林水産部	17
	中野地区地域活性化施設新築工事	
	船浦地区地域活性化施設新築工事	
	● 商工労働部	18
	沖縄県特別自由貿易地域賃貸工場建設工事	
	● 土木建築部	19
	渡嘉敷港岸壁附属施設工事	
	座間味港岸壁及び物揚場附属施設工事	
	伊計平良川線ロードパーク道路情報室新築工事	
	バナナ公園渡り鳥観察所建築工事	
	県営潮平高層住宅建設工事	
	● 教育庁	23
	埋蔵文化財調査センター(仮称)建設工事	
	中部農林高校屋内運動場及び武道場改築工事	
	読谷高校校舎・屋内運動場及び武道場改築工事	
4	工事概要一覧表	25
5	事業・予算の流れ	28
6	沖縄県行政機構図	29
7	編集スタッフ	30
	編集後記	



## 特集 ① 沖縄県平和祈念資料館建設工事



平和の礎を取り囲むように同心円状に平和祈念資料館が配置されている



平和の火を中心とした同心円状の建物で、長さ220m、125の赤瓦屋根を持つ

平和祈念資料館は、沖縄戦50周年目の節目に平和のメッセージを発信する施設として計画され、本島南部の国立戦跡公園に指定されている平和祈念公園内に建設された。この建物は、「平和の礎」（沖縄戦で亡くなられた国籍、軍人、民間人を問わず全ての人の氏名を刻銘した石版の集合体）の平和の火を中心として同心円状に配置され、軸線等を一体的に空間構成する手法がとられており、また、規模の壮大さを全面に出さないよう、できるだけ低層とし、セットバックさせ、大屋根を避け小さな赤瓦屋根の集まりが沖縄の伝統的な民家集落を感じさせるような設計となっている。

この独自性の高い平和祈念資料館の設計については、この建物が象徴性、記念性が求められる設計となることから、設計プロポーザル・エスキス競技により設計者の選定が行われた。このプロポーザル・エスキス競技は、平成7年末から平成8年にかけて行われ、建築専門家、学識経験者等の7人で構成する審査委員会により応募作品52点の中から最優秀賞、優秀賞、佳作が選定された。講評の中で、「この作品は、隣接した「平和の礎」に添う形で平和の火を中心とした同心円上に配置されている。屋根には、赤瓦をのせ建物の庭に面して広い回廊が雨端のようにつらなり、沖縄の民家集落の雰囲気漂わしている。平和の礎は平和祈念公園内において最も重要なものとして位置づけられ、この平和祈念資料館と対をなすものともなされている。平和の火を原点とした同心円の形態を素直に採用していること、さらに平和祈念公園内の自然や環境と調和し、さらに相乗効果をあげるもの」と高く評価された。

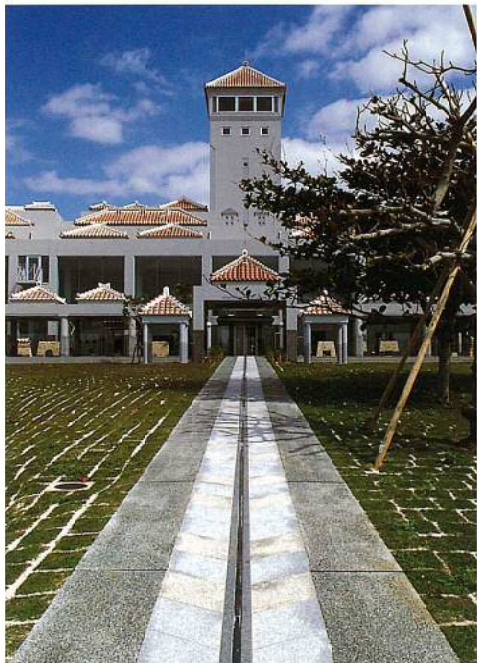


配置図 平和の礎の中央の広い径に慰霊の日（沖縄戦が終わった6月23日）の日の出の軸線





昔の沖縄の集落の風景を思わせる赤瓦屋根群 集落の雰囲気を出すためにそれぞれの屋根は大きさ、形、色が少しずつ異なる



平和の火と資料館を結ぶ象徴的な小径



建物北側は将来の屋外展示スペースである 北立面はシンプルでソリッドな立面とし、南立面と対比的な表情をもたせている



平和の礎、平和祈念資料館、慰霊の広場が連結された現況



展望台から見る資料館の屋根



ホール前の水路と中庭と柱廊



柱廊は、伝統的な沖縄の雨端空間 数多くのベンチが置かれている



湾曲した長いホールには、階段を兼ねた段状ホールとスロープがある



中庭にはヒンヤンや東屋や沖縄の自生植物がある



ホールにある琉球松のベンチ



琉球吹きガラスを使ったサイン



海と礎の回廊の展示物は沖縄の青い海と青い空



平和祈念ホール 世界地図が逆さになった暖帳と固定イス



階にある子供・プロセス展示室



2階常設展示場内の証言の部屋



沖縄の島の地形を形取ったサイン



## 特集 ② 国際友好会館(万国津梁館)建設工事



沖縄国際友好会館(万国津梁館)は、国際都市形成構想の理念を踏まえ、沖縄国際都市形成基本計画に基づき、「世界に誇れる美しく豊かな自然」に溶け込みながら、「くつろぎ」の中で日本と諸外国との実り豊かな「国際交流」「平和交流」「文化交流」を県民が主体となって具体化することを目的として設置するものである。

また、本国際友好会館は、2千年サミットにおける使用施設の一つとして活用することも目的とする。

沖縄国際友好会館の基本理念として、第1に「国際交流」「平和交流」「文化交流」の実践により本県のアイデンティティを明らかに浮かび上がらせ、県民の国際感覚を涵養し、もって日本及び国際社会の平和と発展に貢献する方策を考える場とすることである。

第2の理念は、アジア諸国と盛んに貿易交流を行っていた琉球王明時代の経済政治感覚を学び、これを県民の資源として現在に生かす場とすることである。

第3の理念は、リゾートとコンベンションの融合により、本県の観光・リゾートに新たな魅力を加える場とすることである。上記の基本理念に従い、リゾートコンベンションとして世界に誇れる施設づくりを目指し、以下のことをコンセプトとした。

- 1) 豊かな自然に恵まれた、リゾート地域にふさわしい交流の場の具体化を図る。
- 2) 亜熱帯地域の特性を活かした、空間(半屋外空間)の創出を図る。
- 3) 三方海に囲まれた計画地の特性を活かし、パノラマ的眺望を確保しつつ自然景観に調和するよう配慮する。
- 4) 分棟形の配置により、機能、動線の明確化を図ると共にヒューマン的な空間を演出する。

### 工事名称：沖縄県平和祈念資料館建設工事

所在地：糸満市摩文仁平和祈念公園内

敷地面積：12,808.4 m<sup>2</sup>

建築面積：6,330.2 m<sup>2</sup> 建ぺい率 49.40%

延床面積：10,180.0 m<sup>2</sup> 容積率 79.50%

地階 2,419.8 m<sup>2</sup> 構造階数 RC造一部PC梁

1階 4,536.7 m<sup>2</sup> 地上2階、地下1階、展望階

2階 3,130.8 m<sup>2</sup> 工期 H9.10.22~H11.6.30

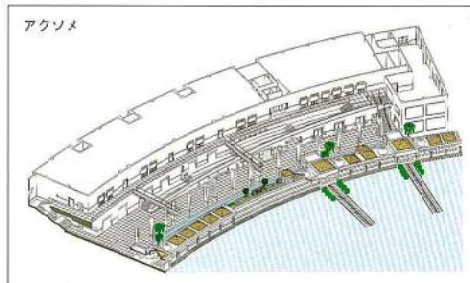
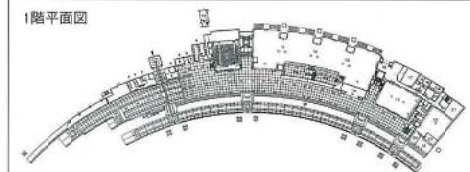
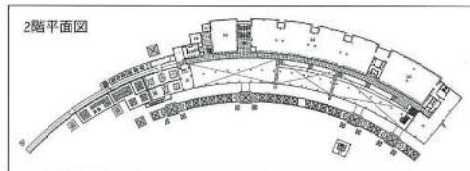
R階 92.7 m<sup>2</sup> 総工事 5,025,264 千円

設計・監理 team DREAM 共同企業体

施工	建築1工区	(株)大米建設、(株)田端建設、(株)玉城組JV
	建築2工区	(株)國場組、(株)金城キク商会、(株)國興建設JV
	建築3工区	(株)大城組、(有)根路銘工務店、丸善建設(株)JV
	電気1工区	(株)那覇電工、南光開発(株)、(株)久米電装JV
	電気2工区	金城電気工事(株)、大洋電気工事(株)、新星電気工事(株)JV
	空調1工区	(株)大宮設備、(有)万代設備、昭和工業JV
	空調2工区	(株)琉球冷機、(有)琉金商事、(株)イチゴJV
	衛生	(株)國場組、光電気工事(株)JV
	舞台照明	(株)松村電機製作所
	舞台音響	松下電器産業(株)
	舞台機構	(株)サンケン・エンジニアリング
	昇降機	(株)沖縄日立
	浄化槽	(株)海邦工業
	周辺整備	(株)大城組
	植栽	(有)赤嶺総合造園



平和の礎に向かって開かれ湾由した吹抜けと列柱を持つ長さ120mの長く広いホールは、平和の礎や平和祈念公園全体の人が集まる場所で、街路の賑わいをもつ都市的空間でもある





## ■会議棟

国際会議の開催に対応できる会議室とする事を主目的として平面計画を行った。

- ・地下部分については、最小限とした。概要としては、機械室・電機室関係等を配置した。又会議室の女台を支援する施設として控え室、倉庫等を配置した。
- ・1階の会議室については、パントリーを舞台の浦に配置し、名護湾等周辺の眺望を最大限確保出来るよう配慮した。
- ・ステージは、琉球舞踊の特殊性を考慮し専門家によるヒアリングを受け、広さ、高さ、設備等に配慮した。
- ・会議室と外部空間の間にテラス等の半屋外空間を設け多目的に使用可能な空間の演出を行った。
- ・2階は、常設の同時通訳室（4室）及び調整室等を設け国際会議に対応できるようにした。



西面外観



東面外観



会議室



ロビー

## ■ラウンジ棟

施設のエントランス機能をもった棟で各棟へのアクセスの基点となる様計画した。

- ・会議の合間などにも利用出来るよう出来るだけ独立させ静かな空間を構築した。



ラウンジ棟



北側外観と修景池



回廊と修景池



ラウンジ棟前・回廊



## ■レセプション棟

基本設計時、茶室・休憩所として計画されていた施設である。軽食が可能なホールが中心で、施設の管理を行う事務室がある棟である。

・地下は、従業員の休憩、更衣室等を設けた。

・1階は、レセプションホールを中心に、厨房やサービスヤード等を周りに配置した。又近くにVIPの為の貴賓室を独立した形で設け、サービスの充実と同時に、特別な空間作りに配慮した。

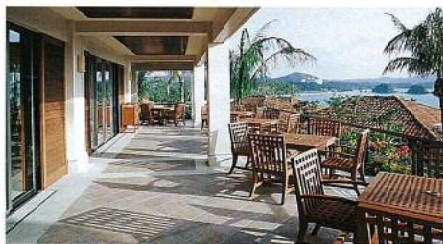
・2階に事務室を設け、利用者との分離を図った。



レセプション棟



レセプションホール



レセプションホールテラス



貴賓室

## 工事名称：沖縄県国際友好会館（万国津梁館）建設工事

所在地：名護市

敷地面積：25,257.0 m<sup>2</sup>

延床面積：3,073.0 m<sup>2</sup>

会議棟 2,177.0 m<sup>2</sup> RC造一部S造 地上2階、地下1階

ラウンジ棟 459.0 m<sup>2</sup> RC造 地上1階、地下1階

レセプション棟 436.0 m<sup>2</sup> RC造 地上1階

工期：H11.3.31～H12.3.31

総工事費：2,092,164 千円

設計・監理 株式会社 国建

施工 会議棟建築：(株)國場組、(株)屋部土建JV

ラウンジ棟

レセプション棟建築：金秀建設(株)

電気設備：(株)沖電工、(株)沖縄特電、金城電気工事(株)JV

機械設備：國和設備興業(株)、(株)大宮設備JV

植栽：(資)沖縄庭芸、(有)北部園芸

## 2000年 九州・沖縄サミット首脳会合



2000年7月21日から23日までの3日間、G7、G8の首脳会合が万国津梁館を主会場に、開催された。

「万国津梁館」という名称は、一般からの公募によって選ばれ、「世界の架け橋になる」という思いが込められている。

